

第4回日本プロオーケストラファンクラブ協議会総会 名古屋総会議事要約

1. 開会のあいさつ（工藤副会長）

振り返れば2006年札幌で設立総会があり、2007年第1回の総会を仙台で開催し、翌年は山形で、昨年は高崎で、そして第4回の今年は名古屋で開催されることになりました。

J O F Cはただのお楽しみクラブではなく、全国の同好の士が手を携えている様々な問題に対処し、自分たちの応援する全国のオーケストラの発展を考え、その演奏を聴き、そして地元を持ち帰り活動に生かしていく、回を重ねるごとにJ O F Cの活動に品質が高まっていると感じています。

名古屋の開催にあたり、名フィル・ファンクラブの皆様にご尽力いただき、おかげさまでこのような会を催すことができます。この総会はもちろん、この後の演奏会、懇親会を含めて一日皆様と楽しみたいと思います。よろしく願いいたします。

(注：会長の上田札幌くらぶ会長が公務の都合で参加できず、副会長の工藤仙台フィルハーモニークラブ会長が会長代行としてあいさつされました。)

2. J O F C会則の改正案について（武藤事務局長）

現行の運営委員会に関する規定は、現実的に運用が難しいので廃止し、会長、副会長など役員を選任方法、総会の位置づけ、役員会、幹事会の会議の設置と電子媒体での会議の開催などを新たに規定する改正趣旨の説明あり、質疑はなく承認されました。

3. 役員改選（石井幹事）

主催者事務局として石井名フィル・ファンクラブ代表幹事（J O F C幹事）から役員候補者を推薦したいと提案し、承認され、役員が次のとおり選任されました。

- 会 長 上田文雄（札幌くらぶ会長）
- 副会長 工藤一郎（仙台フィルハーモニークラブ会長）
- 〃 加藤 聡（山響ファンクラブ顧問）
- 〃 小野善平（群響ファンズ会長）

続いて、幹事の指名が工藤副会長から次のとおり行われました。

- 幹事長 西川吉武（札幌くらぶ副会長）
- 事務局長 武藤義典（札幌くらぶ事務局長）
- 幹 事 高橋 望（仙台フィルハーモニークラブ事務局長）
- 〃 保科 誠（山響ファンクラブ事務局長）
- 〃 石守 晃（群響ファンズ事務局長）
- 〃 静岡俊郎（石川県立音楽堂楽友会副代表幹事）
- 〃 石井慎一（名フィル・ファンクラブ代表幹事）
- 〃 谷 邦彦（広響フレンズ代表）

4. 各クラブの活動報告

北から順に札幌くらぶから次の要約のとおり報告されました。

札幌くらぶ（武藤事務局長）

会報「札幌くらぶ」が1997年9月総会以来2010年3月で50号となった。発刊継続の危機などエピソードや「FAN CLUBの和」が不定期の連載記事として始まった翌年の2002年12月にSPCとの交流会が実現、これが今のJOFC発足のきっかけとなったこと、昨年12月の文科省関連の事業仕分けに対するパブリックコメント応募の呼びかけによる結果の公表を報告した。

札幌くらぶ活動報告（PDF）

仙台フィルハーモニークラブ（工藤会長）

恒例行事として「おもしろセミナー」「茶話会」「新規会員に対するCDプレゼントキャンペーン」「演奏活動賛助金の贈呈」の実施、会報とSPC通信の発行、今年9月に迎える発足15周年記念パーティーの準備と「ペアチケットプレゼントキャンペーン」を実施していること、SIMC、せんくら、アフィニス夏の音楽祭などを通じてYFCとの交流が活発化していることを報告した。

最近の活動状況（PDF）

山響ファンクラブ（山口龍也事務局次長）

会員の執筆参加、演奏会を楽しみ相互の結びつく場となるよう会報の充実を目指した。山響第200回定期演奏会終演後の祝賀会で譜面台25台を贈呈し、学校などでの音楽教室事業で使用されている。恒例の芋煮会、忘年会、ゲネプロ見学会なども予定どおり実施したが、ゲネプロ見学会では参加者の不振、11月、12月に偏っているイベントの分散化など全体として会員活動の活発化を図りたいと報告した。

山響ファンクラブ平成21年度活動報告（PDF）

群響ファンズ（石守事務局長）

群響ファンズ（群響を応援する県民の会）の活動も今年で22目を迎える。すみだトリフォニーホールでの地方オーケストラフェスティバルの群響東京公演応援バスツアーを実施、群響ファンのすそ野拡大策として小学4年から高校生を対象に毎回2席のシートを抽選でプレゼント、財団法人を目指す群響から群響グッズの販売打診を受けて決定した。また、念願のホール建設が決定したが、多目的ホールか専用ホールか決定できていない、と報告した。

2009秋～2010夏群響ファンズ活動報告（PDF）

石川県立音楽堂楽友会（吉川事務局長）

1988年にOEK友の会として結成、2001年に音楽堂が開館、翌2002年に音楽堂を支援し、音楽文化を普及することを目的として「楽友会」が設立された。音楽堂には洋楽ホールと邦楽ホールがあり、楽友会はOEKファンクラブと伝統文化を支援

する文化ボランティアの二つの性格を併せ持っていて、他の団体と違う活動形態です。しかし、OEK支援、音楽堂業務支援を継続していくには、これまでのボランティア団体で力不足であることを実感し、来年度から会費を徴収して新たな会員を募集、新たなスタッフを加えて活動の拡大を図っていく、などこれまでの活動を含めて報告した。

J O F C 第 4 回 総 会 名 古 屋 大 会 に お け る 活 動 報 告 (P D F)

広響フレンズ (佐藤幸一)

1998年に楽団支援を強化するために広島交響楽協会と楽団員により広響フレンズが設立され、楽団員との交流がスタッフ中心に具体化されたことにより、実質的なファンクラブと認識されてきました。しかし、国、自治体の協会への補助金削減などでフレンズ援助金が無くなり、また、演奏会を聴きに來る会員や定期会員が少ないなどの理由により、昨年、ファンサービスは協会が直接企画運営するとしてスタッフ体制を解散するとの提案が出され、ユニオンや会員などから疑問が続出、協会、フレンズ、ユニオンの三者の会談が数度持たれ、解散は変更できないが新ファンクラブができれば協力する、経過などを報告する協会主催の総会の開催するなどを決定、今回が広響フレンズとしての最後の報告となる、と報告した。総会は9月下旬開催を予定、来年は新しい体制で報告をできるようにしたい、と締めた。

日本プロオーケストラファンクラブ協議会第4回総会資料 (PDF)

名フィル・ファンクラブ (菱田富夫)

幹事が5名という少人数での活動で、会報はこの1年3回発行しているが、最新号は5月発行で既に4ヶ月が過ぎていてそろそろ発行しなければという状況です。主催のミニコンサートも3回の予定ですが3月に開催してから次が開場や楽員の予定、担当者の都合などで決まっていない、こんなことからエコバックを作成して会員、楽員へ配布して還元しました。今後の課題として、幹事の増員、楽団事務局との関係強化に取り組んでいきたい、と報告しました。

名フィル・ファンクラブ活動報告 (PDF)

5. 名古屋宣言

名フィル・ファンクラブから次のとおり提案され、採択されました。

各地域に根ざしたオーケストラの存在は、私達の心のよりどころであるとともに、各地域における文化の発展に大きく貢献しているものと確信をしております。

したがって、各地域における音楽文化の更なる広がりを創るため期待するためにも、今まで以上にオーケストラをサポートすることを確認し、また、J O F C 加盟団体の情報交換をより活発に行うことを宣言します。

名古屋宣言 (PDF)

6. 次期総会開催地について

音楽堂開館10年を迎えることから金沢で開催したいとの申し出があり、2011年の開催地は石川県立音楽堂楽友会主催で「金沢市」と決定しました。

7. 閉会のあいさつ（加藤副会長）

少し早めに終わるかなと思っていましたが、皆様の悩み、楽しみ、苦しみ、ホール、事務局との関係、団員との関係、指揮者との関係などと言い換えることができるのではと思いましたが、本当に悩み、楽しみを同じくする団体がこのような形で、年に一度集らさせていただくことの幸せをこの時間で感じさせていただきました。

北海道・東北の三つのファンクラブが小さな気持ち、小さな準備で始めた活動がこんなに大きく膨らんで、事業仕分けのときはもう我々は十分にロビイスト的活動ができると各地の行政に知らしめたと思える力がついてきたと思います。

総会の開催地もどんどん南下してきて来年は金沢、その次はもっと南下するのかなと期待させていただけるものと思っています。